

平成26年度事業報告書

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

学校法人多摩美術大学

東京都世田谷区上野毛3-15-34

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神	2 頁
2. 沿革	2 頁
3. 設置学校等	3 頁
4. 目的・教育目標	4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率	6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況	7 頁
7. 役員に関する情報	8 頁
8. 教職員に関する情報	8 頁
9. 学習環境に関する情報	9 頁

II. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画	10 頁
2. 平成 26 年度 事業計画と達成状況	10 頁
3. 施設設備	11 頁
4. 各部署の取組み	12 頁

III. 平成 26 年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算	15 頁
2. 消費収支計算	16 頁
3. 貸借対照表	17 頁
4. 財務比率	18 頁
5. 財産目録	19 頁

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

昭和 10 (1935) 年の前身校 (多摩帝国美術学校) の創立にあたって、その設立趣意書において、「美術は自由なる精神の所産たるを想ふとき、我が美術教育界の缺陷は力説に償するものといふべし。我等同士がこゝに我が美術教育界の缺陷を補填し、我が國美術の振興に寄與せんとする微意に出づ」と壮大な決意を謳いあげている。

美術・デザインの領域における専門教育が官立学校に頼る中、それに匹敵する私立学校を設立し、美術・デザイン領域における専門教育の充実を図ろうとの理念の下に本学は設立された。以来、今日に至るまで美術・デザイン領域における専門職業人、独立した作家の育成を理念としている。

2. 沿革

昭和 10(1935)年	多摩帝国美術学校を 5 年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設
昭和 12(1937)年	財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可
昭和 22(1947)年	専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。
昭和 25(1950)年	旧制の多摩造形芸術専門学校に 3 年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設
昭和 26(1951)年	学校法人に組織変更
昭和 28(1953)年	学制改革にともない、4 年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科)
昭和 29(1954)年	川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2 年制 映画科、演技科)を設置
昭和 30(1955)年	多摩美術短期大学を廃止
昭和 39(1964)年	大学院美術研究科修士課程を設置
昭和 44(1969)年	芸術学科、建築科の 2 科増設の認可
昭和 46(1971)年	年次計画により八王子移転を開始。建築科開講
昭和 49(1974)年	美術学部の八王子移転完了
昭和 56(1981)年	芸術学科を開講し、美術学部は 5 科となる。
昭和 57(1982)年	多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開
平成元(1989)年	美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科)開設
平成 4(1992)年	多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増
平成 7(1995)年	大学院美術研究科昼夜開講制開始
平成 10(1998)年	美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設

平成 11(1999)年	美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
平成 12(2000)年	附属美術館を多摩センターへ移転
平成 13(2001)年	大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
平成 14(2002)年	大学院美術研究科工芸専攻開設
平成 17(2005)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
平成 18(2006)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
平成 19(2007)年	大学院美術研究科デザイン専攻定員増
平成 20(2008)年	美術学部生産デザイン学科定員増
平成 24(2012)年	大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
平成 25(2013)年	造形表現学部募集停止
平成 26(2014)年	美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設

3. 設置学校等

多摩美術大学
理事長 藤谷 宣人
学 長 五十嵐 威暢
所在地 上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34
八王子キャンパス：東京都八王子市鎌水 2-1723

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
統合デザイン		
演劇舞踊デザイン		

大学 造形表現学部	造形	平成 25 (2013) 年 4 月募集停止
	デザイン	
	映像演劇	

4. 目的・教育目標

[大学の目的・教育目標]

学則の第一章（総則）第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成する」としている。

また、大学院学則第三条に、「造形芸術全般について高度な学理技能および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」としている。

専門職業人、作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士後期課程（博士）は、社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻 1 専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士前期課程（修士）は、美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、昭和 39（1964）年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、平成 10（1998）年に芸術学専攻、平成 14（2002）年には工芸専攻を開設して、1 研究科 5 専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。平成 7（1995）年に昼夜開講制を導入した。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによっては達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の 2 つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫かれた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

[造形表現学部（夜間）の目的・教育目標]

美術・デザイン教育を夜間に行うわが国唯一の学部であり、平成元（1989）年に美術学部二部として開設され、その後平成 11（1999）年 4 月に発展的改組転換をして現在に至っている。

美術学部と同じく、専門職業人、独立した作家の育成を目的としている。それに加え、造形表現学部は通学至便の地にある夜間学部の特性を活かし、社会人の再教育・生涯教育の機会を提供することを大きな目的としている。

午後 6 時から（土曜日は午後 2 時から）午後 9 時 10 分までの授業時間で、4 年間で卒業できるカリキュラムを組んでおり、社会人の再教育・生涯教育の推進にあたっている。

なお、平成 25（2013）年 4 月をもって募集を停止した。

5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

【大学院】

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画専攻	日本画 油画 版画	60	120	99	82.5%
		彫刻専攻		12	24	19	79.2%
		工芸専攻		10	20	14	70.0%
		デザイン専攻	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	45	90	99	110.0%
		芸術学専攻	芸術学 身体表現	10	20	16	80.0%
	小計		137	274	247	90.1%	
	博士後期課程	美術専攻		7	21	12	57.1%
合計				144	295	259	87.8%

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子	美術学部	絵画学科	日本画 油画 版画	190	760	(145) 825 (535) (145)	108.6%
		彫刻学科		30	120	138	115.0%
		工芸学科	陶 ガラス 金属	60	240	247	102.9%
		グラフィックデザイン学科		180	720	767	106.5%
		生産デザイン学科	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	100	400	450 (268) (182)	112.5%
		環境デザイン学科		80	320	343	107.2%
		情報デザイン学科	情報芸術 情報デザイン	120	480	565	117.7%
		芸術学科		55	220	211	95.9%
		統合デザイン学科		120	120	132	110.0%
		演劇舞踊デザイン学科		80	80	81	101.3%
小計				1015	3,460	3,759	108.6%
上野毛	造形表現学部	造形学科			120	92	76.7%
		デザイン学科			300	177	59.0%
		映像演劇学科			180	192	106.7%
		小計			600	461	76.8%
合計				1,015	4,060	4,220	103.9%

カッコ内は専攻の内数

総計				1,159	4,355	4,479	102.8%
----	--	--	--	-------	-------	-------	--------

平成26年5月1日現在

6. 学部学科・専攻別進路状況

平成27年3月31日現在

大学院	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	50 (41)	24 (19)	22 (19)	4 (4)	24 (18)
彫刻	7 (6)	5 (4)	5 (4)	0 (0)	2 (2)
工芸	10 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	7 (3)
デザイン	42 (27)	26 (19)	19 (14)	2 (2)	21 (11)
芸術学	6 (4)	3 (2)	2 (2)	1 (0)	3 (2)
美術(後期課程)	5 (2)	3 (1)	2 (1)	0 (0)	3 (1)
合計	120 (86)	64 (48)	53 (43)	7 (6)	60 (37)
修了者に対する割合			44.2%	5.8%	50.0%

美術学部	卒業生	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	190 (154)	85 (73)	69 (62)	51 (38)	70 (54)
日本画	33 (25)	16 (13)	14 (13)	10 (6)	9 (6)
油画	126 (101)	53 (45)	41 (36)	33 (26)	52 (39)
版画	31 (28)	16 (15)	14 (13)	8 (6)	9 (9)
彫刻	32 (23)	9 (8)	9 (8)	16 (12)	7 (3)
工芸	56 (44)	30 (25)	24 (20)	12 (8)	20 (16)
グラフィック	174 (137)	138 (110)	124 (96)	8 (6)	42 (35)
生産	102 (67)	80 (50)	64 (39)	8 (8)	30 (20)
プロダクト	60 (29)	49 (21)	40 (16)	4 (4)	16 (9)
テキスタイル	42 (38)	31 (29)	24 (23)	4 (4)	14 (11)
環境	80 (57)	56 (43)	51 (40)	9 (5)	20 (12)
情報	129 (94)	91 (71)	74 (57)	13 (4)	42 (33)
メディア芸術	72 (51)	47 (36)	36 (28)	7 (3)	29 (20)
情報デザイン	57 (43)	44 (35)	38 (29)	6 (1)	13 (13)
芸術学	43 (22)	28 (13)	22 (10)	6 (3)	15 (9)
合計	806 (598)	517 (393)	437 (332)	123 (84)	246 (182)
卒業生に対する割合			54.2%	15.3%	30.5%

造形表現学部	卒業生	就職希望者	就職者	進学者	その他
造形	32 (26)	19 (17)	17 (15)	0 (0)	15 (11)
日本画	11 (9)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	7 (5)
油画	21 (17)	14 (12)	13 (11)	0 (0)	8 (6)
デザイン	53 (28)	40 (19)	24 (10)	1 (1)	28 (17)
ビジュアル	22 (10)	17 (7)	7 (2)	1 (1)	14 (7)
デジタル	14 (11)	13 (10)	9 (6)	0 (0)	5 (5)
インダストリアル	8 (5)	5 (2)	5 (2)	0 (0)	3 (3)
スペース	3 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)
映像デザイン	6 (2)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	5 (2)
映像演劇	59 (40)	25 (17)	20 (13)	2 (1)	37 (26)
合計	144 (94)	84 (53)	61 (38)	3 (2)	80 (54)
卒業生に対する割合			42.4%	2.1%	55.6%

()女子学生内数

7. 役員に関する情報

平成 26 年 10 月 1 日現在

役員(9名)		評議員(19名) (五十音順)	
理事 7名		評議員	安倍 千隆
理事長	藤谷 宣人	評議員	五十嵐 威暢
理事(学長)	五十嵐 威暢	評議員	近藤 秀實
理事	岩倉 信弥	評議員	須永 剛司
理事	田口 敦子	評議員	田口 敦子
理事	中野 嘉之	評議員	田淵 諭
理事	萩原 朔美	評議員	中島 和彦
理事	本江 邦夫	評議員	中野 嘉之
		評議員	野口 裕史
監事 2名		評議員	野澤 敏之
監事	飛鳥田 一朗	評議員	萩原 朔美
監事	森 三千郎	評議員	橋本 京子
		評議員	平出 隆
		評議員	深澤 直人
		評議員	藤谷 宣人
		評議員	室越 健美
		評議員	本江 邦夫
		評議員	渡辺 達正
		評議員	和田 達也
【参考】			
理事定数	7～9名		
監事定数	2～4名		
評議員定数	19～21名		

8. 教職員に関する情報

平成 26 年 5 月 1 日現在

教員数 (本務者)		() 内は女性教員内数	
学長	1名 (0名)	大学院助手	3名 (1名)
美術学部		造形表現学部	
教授	97名 (16名)	教授	15名 (3名)
准教授	22名 (7名)	准教授	5名 (0名)
講師	7名 (2名)	講師	0名 (0名)
助手	28名 (17名)	助手	7名 (4名)
合計	154名 (42名)	合計	27名 (7名)
教員数(本務者)合計		185名 (50名)	
教員数 (兼務者)		() 内は女性教員内数	
客員教授	65名 (16名)	非常勤講師	374名 (106名)
教員数(兼務者)合計		439名 (122名)	

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	163名 (67名)
-----	------------

9.学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部 造形表現学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、 講堂、図書館、A棟、B棟、演劇舞踊スタジオ

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鍵水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、図書館、メディアセンター、レクチャーホール、グリーンホール、体育館、T A Uホール、工作センター、第二工作センター、学生クラブ棟
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設]

- ・大学附属美術館（東京都多摩市）
- ・富士山麓セミナーハウス（山梨県）
- ・奈良古美術セミナーハウス（奈良県）

[附置研究所]

- ・芸術人類学研究所（八王子キャンパス）

Ⅱ. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画

専門性と総合性の融合を目標に教育改革を行い、広く社会に開かれた大学として、社会に対する説明責任を果たすため情報公開を推進し、同時に、産学官共同研究、生涯学習活動等、大学の持つ知的資源の還元と交流により、社会との互恵的な発展を進めていく。

一方で、自由独立の決意を持って、開かれた大学のトップランナーとなること、それが多摩美術大学の使命である。

何よりも建学の精神に立ち戻り、あらためて将来を見通し、大学の新たな体制作りを模索することが求められている。

平成 26 (2014) 年度の事業計画にあたり、その前提となる中長期的な基本計画は以下のとおりである。

- (1) 教育及び研究体制の整備、再点検
- (2) 学生受入態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナーを育成のための環境整備
- (4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革

2. 平成 26 (2014) 年度 事業計画と達成状況

(1) 教育及び研究体制の整備、再点検

①グローバル化の進展とともに英語教育への重要性が高まっており、語学力別にクラス分けをすることで教育効果を高めた。

②美術を学ぶ上で習得しなければならない学理とは何か、本来に立ち戻って学科科目の見直しについて検討を行った。

③シラバスの充実とともに、授業の開始にあたり学生にシラバスを通して、その授業が目指すもの、目的について説明することを基本とした。

④平成 27 (2015) 年度に大学基準協会による認証評価を受けるにあたり、学内の教育及び研究体制について再点検を行った。

(2) 学生受入態勢の強化

昨年まで分離開催していたオープンキャンパスと進学相談会を同時開催したことや芸術祭期間中にも進学相談会を開催したことで、相談者が飛躍的に伸びた。

また、演劇舞踊対策として、全国高等学校演劇協議会への協賛加盟や大会参加、顧問研修会に出席することにより告知強化に努めた。

さらにスマートホン、タブレット端末向けのコンテンツを拡充するなど、大学 Web サイトを強化した。

(3) 国際的な美術家、デザイナーを育成のための環境整備

①平成 18 (2006) 年より、協定校のアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン (アメリカ) とパシフィック・リム・プロジェクト (日米相互での共同特別授業) を行ってきたが、9 年目の今年度は「Light & Shadow~The Art of Illumination (光と影~イルミネーションの芸術)」を

テーマとして、ジャパンステージ（平成 26（2014）年 8 月 29 日～12 月 5 日）を開催し国際交流を図った。

②平成 22（2010）年に開始された「ARTSAT：衛星芸術プロジェクト」は、地球を周回する衛星や深宇宙に投入される宇宙機を「宇宙と地球をつなぐメディア」ととらえ、そこから得られるデータを使ってインタラクティブなメディア・アート作品などの制作実験を展開していくプロジェクトであり、本学と東京大学のコラボレーションを軸に進められている。

平成 26（2014）年 2 月 28 日、H-IIA ロケット 23 号機の副衛星 ARTSAT1:INVADER(10cm 角、重量 1.85kg)が太陽非同期軌道に投入され、本学に設けられた主管制局からのコマンドによって、音声や音楽、写真の撮影と送信、チャットボットによる地上との対話といった様々な芸術ミッションを行い、平成 26（2014）年 9 月 2 日大気圏に再突入して消滅した。

ARTSAT プロジェクトは、INVADER に続く 2 号機として、深宇宙彫刻 ARTSAT2:DESPATCH(約 50cm 角、重量約 33kg)の設計開発を行った。

DESPATCH は 3D プリンタで制作された螺旋状の彫刻部を有する宇宙機で、平成 26（2014）年 12 月 3 日、H-IIA ロケット(主衛星「はやぶさ 2」)に相乗りする小型副ペイロードとして打ち上げに成功、世界で初めて深宇宙軌道に投入された世界で最も遠い芸術作品となった。

DESPATCH の運用は平成 27（2015）年 1 月 3 日に終了したが、作品は人工惑星として半永久的に太陽の周りを回り続ける。

③バナナ・テキスタイル・プロジェクトは、フィリピンのボホール島で開催された FabLab アジア国際会議 (<http://fablabasia.net/>) に参加（平成 26（2014）年 5 月 2 日～7 日）し、プロジェクトの紹介とバナナ繊維のワークショップを行った。

④大学院修士課程においてカリキュラムの一環として学科横断的に実施する Day-see プログラム（“day=日々”、“see=見る”という英語の造語で、この取組を通じて現在、未来の私たちの社会を“デザイン”という視点から“見つめていく・見つめ直す”という意味が込められている。）ラオス ODOF プロジェクトを行った。

2 専攻 3 研究領域の学生 24 名が参加し、ラオス南部の 6 つの支援村を訪ね生産者への聞き取り、市場などでの製品販売の様子、パッケージデザインに関する調査等を行い（6 月 23 日～29 日）、3 つのワークショップを企画・実践的活動を展開し、ラオス南部 5 県の 8 村から 30 名の生産者の参加（11 月 12 日～22 日）があった。

⑤協定校と連携して、教育環境の整備により国際的に活躍する人材の育成を目指し、アアルト大学、ベルリン芸術大学、弘益大学校、国立台湾芸術大学、国立台北芸術大学、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート、ヘリット・リートフェルト・アカデミー、グラスゴー美術学校と交換留学を行った。

⑥日本の強みや魅力等の日本的な価値に関する理解と関心を深めるために、日本政府により進められている事業である「KAKEHASHI プロジェクト」に採択され、平成 25（2013）年度にプロダクトデザイン専攻 2 年次 12 名が渡米、平成 26（2014）年度は米国シンシナティ大学より学生 12 名が来訪した。

(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革

美術学部は、八王子キャンパス 8 学科 5 専攻、上野毛キャンパス 2 学科からなるが、それぞれが高い専門性を持っている一方で、学科・専攻別にタテ割りで総合性に欠ける嫌いがあることか

ら、PBL科目及び全学科対象のオープン科目の充実を図った。

3. 施設設備

(1) 上野毛キャンパス

- ①演劇舞踊スタジオが竣工した。
- ②平成 27 (2015) 年度の新入生を受け入れるにあたり、各棟講義室等の改修を行った。

(2) 八王子キャンパス

- ①資料センター (仮称) の建築に着手した。
- ②デザイン棟・彫刻棟・工芸陶棟の GHP エアコン機器更新工事を行った。
- ③絵画棟のアトリエ床補修工事を行った。
- ④彫刻石彫棟のテント張替工事を行った。

(3) セミナーハウス

- ①富士山麓セミナーハウス (山中純林苑) の建替えに着手した。(平成 28 (2016) 年 1 月末竣工予定)
- ②奈良古美術セミナーハウス (奈良飛鳥寮) の建替えに着手した。(平成 27 (2015) 年 9 月末竣工予定)

4. 各部署の取組み

(1) 教務部

- ・ 学士課程教育の構築、質保証のため、新たにカリキュラム設計等の基本仕様を策定し、カリキュラム改革にあたっての指針となるルール化を行った。
- ・ 平成 26 (2014) 年度開設の統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科は入学定員を充足し、設置計画に沿って教育研究活動を順調に履行した。
- ・ 大学評価申請に向けて、事務局主導で大学評価申請本部を立ち上げ準備を行ってきた。
- ・ 大学院の充実化、実質化に向け、学部と連動して授業評価アンケート、授業参観などFDの推進を図った。
- ・ 資格課程については、履修学生に対する丁寧なガイダンス、指導が成果を上げた。
- ・ 学生交流協定を締結していない海外協定校に対して、学生交流協定の締結を進めた。

(2) 入学センター

- ・ 大学院、特別入試の 6 種類の募集要項をペーパーレス化し Web 対応とした。
- ・ 新システムの導入によりデータを一本化し、入試処理業務のスリム化と精度を上げた。
- ・ 進学相談会での説明内容の統一化とプレゼンの安定化を図るため、学科紹介、入試情報、施設案内、卒業制作作品、制作風景、卒業生の活躍を網羅したコンテンツを開発した。
- ・ 発送の仕組みを改善し、受験生の希望に沿った媒体提供が可能となった。
- ・ 進学相談会をオープンキャンパスと同時開催したことで、相談者が飛躍的に伸びた。
- ・ 芸術祭における進学相談会を拡充した。
- ・ 高大連携校に神奈川県立弥栄高校と都立世田谷総合高校が加わり 6 校となった。
- ・ 全国の高校演劇の役員との交流、全国美術高等学校協議会との連携を深めた。

(3) 学生部

- ・上野毛キャンパス美術学部生への支援として、美術学部事務室、学生相談室、保健室間で情報を共有するための基盤が整えられた。
- ・学生満足度の向上に向け、意見箱の取りまとめを行った。
- ・多様化する学生への支援について、研究室及び関係部署と情報を共有するよう努めた。
- ・課外活動支援として、部室更新面接、クラブ・サークル連絡会を実施し、要望等についてヒアリングを行い、学生とのコミュニケーションを図った。
- ・前年実績を大きく上回る就職率となった。
- ・就職活動後ろ倒し問題を踏まえ、6月に進路ガイダンスを実施するなど意識付けを行った。
- ・「進路・就職推進懇話会」を実施するなど、教職員の連携強化を図った。
- ・悩める学生への支援強化として、関係部署との「ケース会議」を開催し情報共有を図った。

(4) 造形表現学部事務部

- ・学生相談室会議やカウンセラー・職員の交流により学生相談体制の充実を図った。
- ・閉学部に向け、留年や休退学について、きめ細かい対応を行った。
- ・多摩芸術学園の学籍簿について、データ化に向け成績と単位の確認を行った。

(5) 企画広報部

- ・卒業制作優秀作品集のWeb版を完成することができた。
- ・学び体験フェア「マナビゲート」に参加するなど広報活動を強化した。
- ・「芸術衛星」「ネスレバリスト」などの広報活動を積極的に支援した。
- ・80年史、80周年Webサイトの公開など80周年記念事業の準備を進めた。
- ・スマートホン、タブレット端末向けのコンテンツを拡充するなど、大学Webサイトを強化した。

(6) 研究支援部

- ・科研費学内ルール改訂版の作成・配布・説明を行った。
- ・外部資金による研究費使用事例集の更新及び事務処理マニュアルの作成を行った。
- ・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に関する情報の公開を行った。
- ・上野毛キャンパス教員対応として、毎週木曜日の午後に研究費受付・相談窓口を開設した。

(7) 図書館

- ・スマートホン用OPAC検索サービスを開始した。
- ・書店の間口拡大と実店舗への訪問による情報入手を行った。
- ・上野毛キャンパス図書館の開館時間・日数を八王子キャンパス図書館に準じるようにした。
- ・上野毛⇄八王子間の学内便について、授業期間中は毎日運行に変更したことで、翌日には取り寄せの資料が届く体制とした。

(8) 美術館

- ・8本の展覧会を実施した。
- ・博物館実習生の受入れ、共同研究への参画など大学美術館としての役割を担った。

(9) メディアセンター

- ・産学共同研究・学内共同研究への支援を行った。
- ・上野毛キャンパス向けネットワーク工事を行った。
- ・4K解像度対応へシフトを開始したことで、映像課題制作における生産性向上が認識された。
- ・写真センターでは、機材を円滑に使用してもらうための講習会を開催した。
- ・工作センターでは、事前の説明会・講習会受講を利用条件とするなど安全確保に努めた。
- ・CMT E Lにおける展示収蔵品に16社追加した。

(10) 生涯学習センター

- ・八王子キャンパスで新講座「アトリエのにおい」を企画・実施した。
- ・八王子開催講座における八王子・多摩地区受講者率が65%に上昇した。
- ・世田谷区教育委員会共催「世紀を歩く」については、定員の218%の応募があった。
- ・福島支援プロジェクト「あそびじゅつ」は、福島県立美術館及び須賀川市で実施され、広報的にも成果があった。

(11) 芸術人類学研究所

- ・第2回「土地と力」シンポジウムには、校内応募により集まった学科・学年・国籍を横断する学生有志が参加し、研究プロジェクトと教育活動との連携を図った。
- ・研究所主催研究会を学生に開放することで、幅広い学科・専攻の学生が参加した。
- ・国内外の各種研究機関、メディア、企業との共同研究を推進した。

(12) 総務部

- ・各部署の業務調査を実施し、事務組織規則の見直しを行った。
- ・自己啓発研修制度を導入した。
- ・学校教育法の改正に伴う内部規則等の総点検・見直しを行った。
- ・80周年記念事業の実施に向け準備を進めた。

(13) 経理部

- ・財政基盤強化に向け、補助金の申請に向けて担当部門と協議を行った。
- ・中長期的な施設整備計画に基づき、財務シミュレーションの見直しを行った。
- ・学校法人会計基準の改正に向け、会計システムプログラムの修正を行った。
- ・経理規程、勘定科目規程を改正した。

平成26年度予算執行および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はHP→多摩美術大学について→会計・事業報告をご参照ください)

2. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,114,700	7,194,760	△80,060
手数料収入	176,600	178,328	△1,728
寄付金収入	750	11,760	△11,010
補助金収入	634,600	607,267	27,333
資産運用収入	93,500	126,058	△32,558
資産売却収入	400,000	500,000	△100,000
事業収入	18,300	34,381	△16,081
雑収入	101,200	157,315	△56,115
前受金収入	2,976,380	3,641,409	△665,029
その他の収入	825,888	751,412	74,476
資金収入調整勘定	△3,514,323	△3,577,309	62,986
当年度資金収入合計(A)	8,827,595	9,625,381	△797,786
前年度繰越支払資金	12,079,350	12,079,350	0
収入の部合計	20,906,945	21,704,731	△797,786

新学科開設(統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科)により予算額を上回りました。

私立大学経常費補助金591,629千円、うち特別補助80,160千円(成長力強化に貢献する質の高い教育583千円、社会人の組織的受入22,729千円、国際交流の基盤整備13,462千円、大学院等の機能高度化14,667千円、授業料減免及び経済的支援22,676千円、東日本大震災支援6,043千円)の交付がありました。
一般補助は学校配点に変化はなく、特別補助も増加しましたが予算額を下回りました。

長期金利は低水準が継続していますが、運用資金量の増加や銀行大口定期預金、長期(20年)国債などの運用により予算額を上回りました。

国債2億円、財投機関債3億円の有価証券満期償還額です。

上野毛キャンパス改修により生涯学習講座開設数が減少し公開講座収入は減額となりましたが、受託研究受入れ額の増加により予算額を上回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,897,250	3,832,724	64,526
教育研究経費支出	2,036,950	1,773,605	263,345
管理経費支出	351,100	299,460	51,640
借入金等利息支出	9,800	9,690	110
借入金等返済支出	110,270	110,270	0
施設関係支出	2,034,300	1,525,549	508,751
設備関係支出	493,300	473,296	20,004
資産運用支出	1,500,000	1,001,000	499,000
その他の支出	394,433	392,142	2,291
予備費	247,050	—	247,050
資金支出調整勘定	△306,040	△252,879	△53,161
当年度資金支出合計(B)	10,768,413	9,164,857	1,603,556
次年度繰越支払資金	10,138,532	12,539,874	△2,401,342
支出の部合計	20,906,945	21,704,731	△797,786

退職金は予算額を上回りましたが、事務職員の業務改善取り組み効果等により超過勤務時間が抑えられ予算額を下回りました。

上野毛キャンパス本館・1号館・2号館改修の営繕費。各種「奨学金」、大学院生への「学修奨励金」、私費外国人留学生への「学費減免奨学金」の継続実施、家計急変緊急奨学金等の学生支援の充実および図書館等の業務委託費の増加を見込みましたが営繕費や印刷費、通信費の減少もあり予算額を下回りました。

八王子キャンパス GHP更新(デザイン棟、陶棟、グリーンホール、工作センター、塑造棟)、デザイン棟CAD室セキュリティ設備工事、美術館 展示室窓硝子開口部塞工事、上野毛キャンパス演劇舞踊スタジオ建築、1号館B1Fコンピュータールーム空調機更新を実施しました。

金利低下により債券購入から銀行大口定期預金へ資産運用をシフトしたことにより予算額を下回りました。
減価償却引当預金を5億円増額(合計53億円)しました。
退職給与引当預金を5億円増額(合計10億円)しました。

上記により次年度繰越支払資金が増加しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△1,940,818	460,524	△2,401,342
------------------	------------	---------	------------

3. 消費収支計算

消費収支計算について、その主な内容を報告します。

【消費収支計算総括表】

(消費収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,114,700	7,194,760	△80,060
手数料	176,600	178,328	△1,728
寄付金	750	20,754	△20,004
補助金	634,600	607,267	27,333
資産運用収入	93,500	126,058	△32,558
資産売却差額	0	70	△70
事業収入	18,300	34,381	△16,081
雑収入	101,200	157,315	△56,115
帰属収入	8,139,650	8,318,933	△179,283
基本金組入額合計	△1,752,420	△824,193	△928,227
消費収入の部合計	6,387,230	7,494,740	△1,107,510

現金11,760千円のほか現物寄付金として科学研究費から購入されたPC5台、図書2冊など8,994千円相当額の寄贈がありました。

国債、財投機関債を額面以下の価格で購入し運用していた債券が満期償還され購入額との差額がありました。

退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費、石彫棟膜屋根修理保険金等により予算を上回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	3,940,550	3,876,018	64,532
教育研究経費	3,314,650	3,051,266	263,384
(うち減価償却額)	1,277,700	1,277,661	39
管理経費	439,500	384,394	55,106
(うち減価償却額)	88,400	84,934	3,466
借入金等利息	9,800	9,690	110
資産処分差額	33,600	33,506	94
徴収不能額	0	0	0
予備費	305,750	—	305,750
消費支出の部合計	8,043,850	7,354,874	688,976

奨学費、印刷費、営繕費、支払報酬手数料、損害保険料、賃借料などが予算を下回りました。

前年度の新学科開設にかかる印刷物や広報費等がなくなり管理経費の全体額が縮小しました。営繕費、構築費などが予算を下回りました。

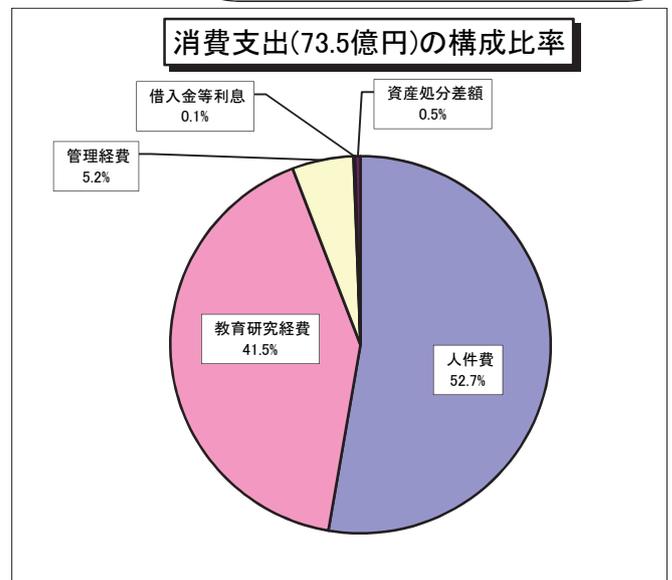
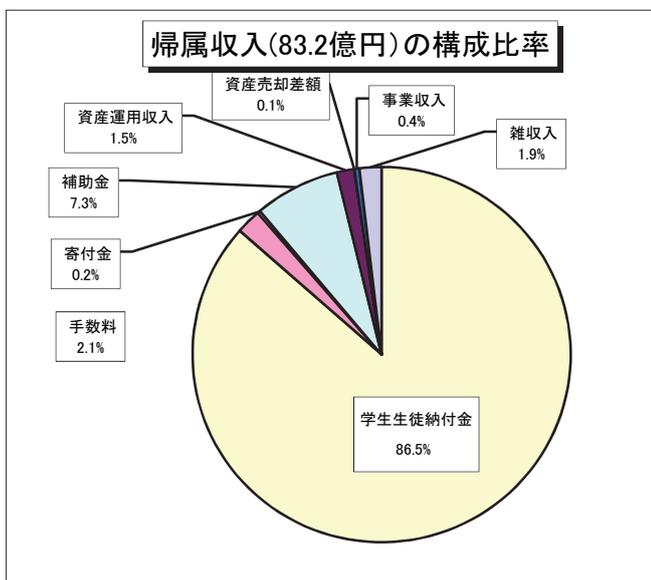
山中・奈良ゼミナールハウス建替他にかかる建物処分差額30,732千円、構築物処分差額1,378千円および汚損・紛失による図書処分差額が1,395千円発生しました。

上記の結果、帰属収入は868百万円予算を上回り、帰属収支差額比率は11.6%になりました。これは次年度以降も継続される施設整備計画の資金に充当されます。当年度の消費収入超過額は140百万円となり翌年度繰越消費支出超過額は5,024百万円に減少しました。この消費支出超過額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れ(84億円)や借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、中期的にはこの消費支出超過額を解消し今後も消費収支の均衡が図られる運営を目指しています。

帰属収支差額 (注1)	95,800	964,059	△868,259
帰属収支差額比率 (注2)	1.2%	11.6%	—
当年度消費収入超過額	0	139,866	—
当年度消費支出超過額	1,656,620	0	—
前年度消費支出超過額	5,163,424	5,163,424	—
翌年度繰越消費支出超過額	6,820,044	5,023,558	—

注1 帰属収支差額=帰属収入-消費支出

注2 帰属収支差額比率=帰属収支差額÷帰属収入×100



4. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します
(資産の部) (単位:千円)

科目		H26年度末	H25年度末	増減
資産	固定資産	53,860,387	53,162,312	698,075
	有形固定資産	35,901,176	35,289,438	611,738
	その他の固定資産	17,959,211	17,872,874	86,337
	流動資産	12,736,977	12,471,546	265,431
合計		66,597,364	65,633,858	963,506

建物＝美術学部 演劇舞踊デザインスタジオ新築、デザイン棟・陶棟・グリーンホール他GHP設備更新工事他
構築物＝美術学部 演劇舞踊スタジオ 外構工事、体育館脇芸術祭テント倉庫建替他
教育研究用機器備品
美術学部＝シューティング機能付調光操作卓1台、iMac69台、Z1 Workstation 36台、レクチャーホールAV機器更新他
造形表現学部＝MacPC18台、キャノン複合機1台他
美術参考品＝大津英敏作品 13点
美術参考資料＝仏像フィギュア 13点
車 両＝NBOX 車椅子仕様1台

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目		H26年度末	H25年度末	増減
負債	固定負債	2,285,480	2,352,456	△66,976
	流動負債	4,156,673	4,090,249	66,424
	計	6,442,153	6,442,705	△552
基本金	第1号基本金	55,937,065	54,698,625	1,238,440
	第2号基本金	8,419,624	8,834,872	△415,248
	第3号基本金	342,080	341,080	1,000
	第4号基本金	480,000	480,000	0
	計	65,178,769	64,354,577	824,192
消費収支差額		△5,023,558	△5,163,424	139,866
負債、基本金、消費収支差額の部合計		66,597,364	65,633,858	963,506

有価証券は国債・財投機関債償還4億円および第3号基本金への振替1億円で5億円減少、第3号基本金引当て分3.4億円を含む保有の有価証券残高32.3億円(H27/3月末現在の取得価額に対する評価はプラス205百万円)
多摩美術大学施設整備資金引当預金(第2号基本金引当預金)残高はスタジオ建築に係る精算金他支出415百万円があり84億20百万円。現有固定資産更新のための資金「減価償却引当預金」残高は5億円増加し53億円。「退職給与引当預金」残高は5億円増加し10億円。

現金預金残高は前年比461百万円増加し12,540百万円、退職金財団交付金等の未収入金が181百万円減少し155百万円、前払金も15百万円減少し41百万円。

長期借入金残高は返済により減少し220百万円、退職給与引当金残高は315名分で2,066百万円となり人数・金額ともに増加。

(参考)

正味資産額	60,155,211	59,191,153	964,058
※正味資産＝資産-負債			
減価償却額の累計額	20,038,122	19,149,070	889,052
基本金未組入額	824,193	0	824,193

第1号基本金＝平成26年度の組入額(資産取得)2,008百万円は当年度除却資産の基本金組入額507百万円と過年度の基本金繰延高258百万円により組入額を相殺し、第2号基本金からの振替をした上で824百万円の組入れをしました。
第2号基本金＝演劇舞踊スタジオ建築に係る精算金他415百万円を第1号基本金へ振替ました。

貸借対照表についてH24年度～H22年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目		H24年度末	H23年度末	H22年度末
資産	固定資産	53,914,959	54,828,212	54,218,539
	有形固定資産	36,078,857	37,295,659	38,486,236
	その他の固定資産	17,836,102	17,532,553	15,732,303
	流動資産	11,079,503	9,544,912	8,941,522
合計		64,994,462	64,373,124	63,160,061

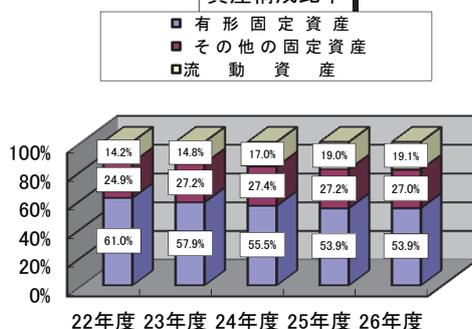
(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目		H24年度末	H23年度末	H22年度末
負債	固定負債	2,516,199	2,881,874	3,433,941
	流動負債	4,182,801	4,211,673	4,011,621
	計	6,699,000	7,093,547	7,445,562
基本金	第1号基本金	54,533,497	54,533,497	54,533,497
	第2号基本金	9,000,000	9,000,000	7,500,000
	第3号基本金	341,080	341,080	341,080
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	計	64,354,577	64,354,577	62,854,577
消費収支差額		△6,059,115	△7,075,000	△7,140,078
負債、基本金、消費収支差額の部合計		64,994,462	64,373,124	63,160,061

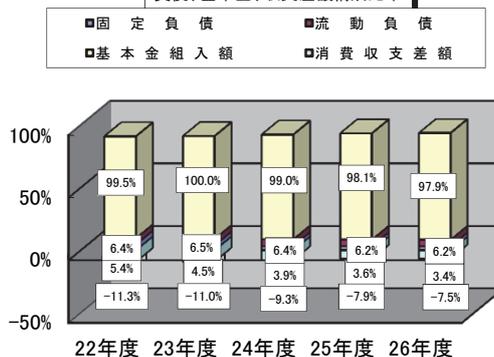
(参考)

正味資産額	58,295,462	57,279,577	55,714,499
※正味資産＝資産-負債			
減価償却額の累計額	18,166,063	16,887,988	15,389,296
基本金未組入額	0	0	319,652

資産構成比率



負債、基本金、収支差額構成比率



5. 財務比率<平成20年度から平成26年度>

※芸術系(20法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】平成26年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	40.7%	40.3%	42.8%	40.9%	44.5%	47.2%	46.6%	53.5%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	48.5%	46.9%	50.3%	48.0%	51.6%	56.1%	53.9%	73.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	4.5%	4.4%	5.4%	4.4%	4.6%	5.8%	4.6%	9.6%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金利息}}{\text{帰属収入}}$	▼	1.0%	0.8%	0.7%	0.5%	0.4%	0.2%	0.1%	0.2%
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	▼	79.8%	82.1%	87.7%	82.5%	87.9%	89.3%	88.4%	95.3%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	97.1%	102.4%	106.6%	99.1%	87.9%	89.3%	98.1%	104.7%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	87.9%	86.1%	85.8%	85.2%	83.0%	81.0%	80.9%	86.6%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	14.5%	14.5%	11.8%	11.0%	10.3%	9.8%	9.7%	9.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	△	7.6%	7.3%	7.4%	8.3%	7.5%	7.6%	7.3%	9.7%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	△	17.8%	19.8%	17.7%	16.7%	0.0%	0.0%	9.9%	9.0%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	99.1%	99.3%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	33.6%	36.4%	37.0%	36.6%	37.9%	36.1%	36.7%	30.1%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{帰属収入}}$	△	84.0%	86.0%	85.0%	85.2%	86.3%	84.2%	86.5%	73.2%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	22.8%	22.8%	20.9%	22.3%	22.0%	19.3%	18.5%	12.6%

【比率分析の見方】

人件費比率＝帰属収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。

人件費依存率＝学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。

借入金等利息比率＝低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値と同水準に低下した。

管理経費比率＝帰属収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。

消費支出比率＝人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。

消費収支比率＝消費収入に対する消費支出の割合で低い方が良い。比率が100%を超えると支出超過(赤字)となる。

固定資産構成比率＝総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。

総負債比率＝低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。

補助金比率＝私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、研究設備整備費等補助金などの積極的な取り組みにより増加。

基本金組入比率＝高い方が良いとされる。長期に亘る八王子キャンパス整備や上野毛キャンパス整備計画により組入れ比率が高水準。

基本金比率＝基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。

教育研究経費比率＝帰属収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。

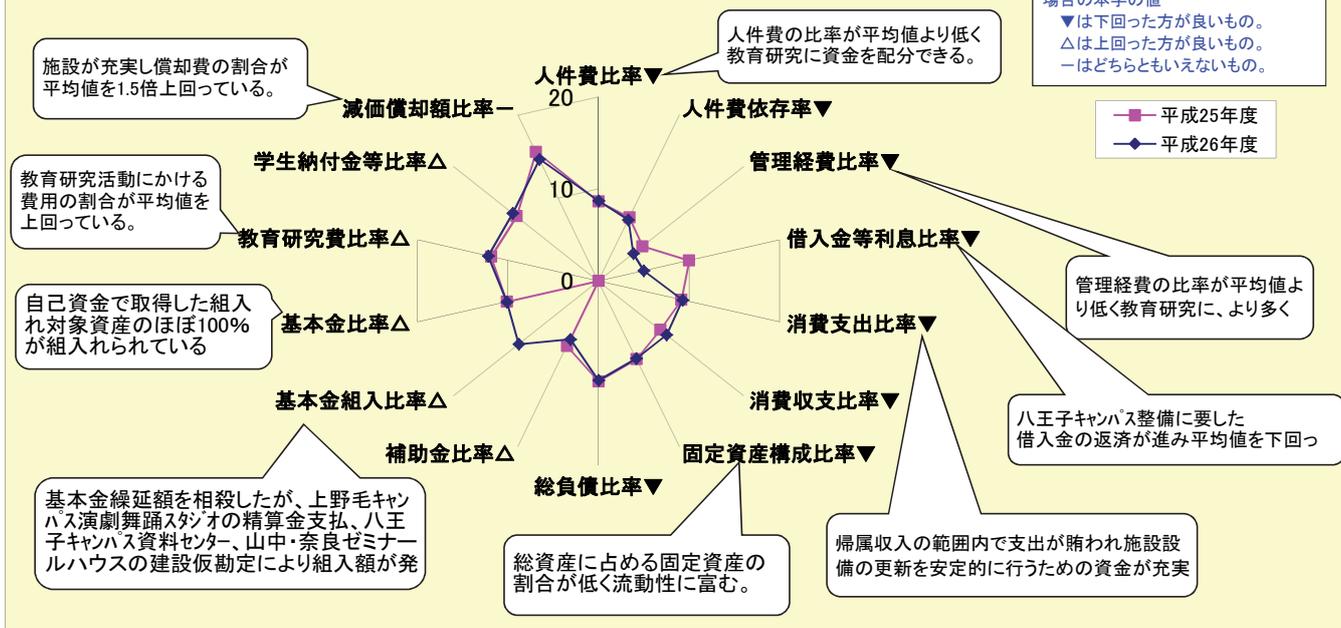
学生納付金等比率＝帰属収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。

減価償却額比率＝将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。

H26年度財務諸表比率【芸術系20法人比較】

芸術系20法人の平均値を10とした場合の本学の値
▼は下回った方が良いもの。
△は上回った方が良いもの。
—はどちらともいえないもの。

■ 平成25年度
◆ 平成26年度



【まとめ】

平成26年度末における本学の財政状況は、多額の資金を要した八王子キャンパス整備の実施に日本私立学校振興・共済事業団から資金を借り入れたことで高かった借入金利息比率も返済が進み平均値を下回る水準になりました。

本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の帰属収支差額に不足なく今後も安定的な教育運営資金が十分確保されています。

財 産 目 録

平成27年 3月31日

I 資産総額		66,597,363,777 円
内 基本財産		35,901,176,079 円
運用財産		30,696,187,698 円
II 負債総額		6,442,152,631 円
III 正味財産		60,155,211,146 円

科 目		金 額	
資 産			
一 基本財産		(35,901,176,079 円)	
1 土地(団地)		187,307.64 m ²	12,868,076,307 円
内 訳	(1)上野毛校地	16,118.66 m ²	10,600,000 円
	(2)八王子校地	152,900.38 m ²	11,850,984,307 円
	(3)美術館敷地(校地)	1,603.00 m ²	920,000,000 円
	(4)山中純林苑敷地	11,929.00 m ²	80,620,000 円
	(5)奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m ²	5,172,000 円
	(6)野尻湖敷地	3,287.00 m ²	700,000 円
2 建物		105,008.15 m ²	15,037,711,848 円
内 訳	(1)校舎	92,150.49 m ²	12,536,414,200 円
	(2)図書館	6,738.99 m ²	1,636,711,748 円
	(3)講堂・体育館	3,895.29 m ²	485,150,635 円
	(4)学生会館	2,073.99 m ²	345,804,838 円
	(5)その他	149.39 m ²	33,630,427 円
3 構築物		339 件	2,987,027,675 円
4 教育研究用機器備品		14,218 点	1,238,312,863 円
5 その他の機器備品		268 点	22,735,092 円
6 図書		208,214 冊	1,317,444,540 円
7 美術参考品		5,449 点	1,293,283,490 円
8 美術参考資料		289 種	52,113,359 円
9 視聴覚資料		3,146 点	31,829,589 円
10 車両		9 台	5,558,866 円
11 建設仮勘定		17 件	1,047,082,450 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		(30,695,673,753 円)
1 現 金、預 金		12,539,873,865 円
2 第2号基本金引当特定預金		8,419,624,477 円
3 第3号基本金引当資産		342,079,839 円
4 減価償却引当特定預金		5,300,000,000 円
5 退職給与引当特定預金		1,000,000,000 円
6 有 価 証 券		2,893,463,000 円
内 訳	(1)利付国債	1,194,296,000 円
	(2)政府保証債	399,479,000 円
	(3)財投機関債	1,099,688,000 円
	(4)電力債	100,000,000 円
	(5)銀行債	100,000,000 円
7 電 話 加 入 権		2,273,222 円
8 差 入 保 証 金		1,256,200 円
9 長 期 貸 付 金		513,945 円
10 未 収 入 金		155,193,656 円
11 前 払 金		41,240,755 円
12 立 替 金		668,739 円
資 産 総 額		66,597,363,777 円
負 債		
一 固 定 負 債		(2,285,480,137 円)
1 長期借入金		219,710,000 円
内訳	日本私立学校振興・共済事業団	219,710,000 円
2 退職給与引当金		2,065,770,137 円
二 流 動 負 債		(4,156,672,494 円)
1 短期借入金		110,270,000 円
2 未 払 金		206,224,971 円
3 前 受 金		3,641,416,952 円
4 預 り 金		198,760,571 円
負 債 総 額		6,442,152,631 円
正味財産(資産総額－負債総額)		60,155,211,146 円